

HSK 試験の回顧と考察

劉 国彬*

Review and a Survey of the Implementation of the HSK Examination in Fukuyama University

GUOBIN LIU*

ABSTRACT

The year 2020 marks the 10th year since Fukuyama University implemented the Hanyu Shuiping Kaoshi (HSK), a Chinese Proficiency Test. The author reviewed the cause, time, and methods, as well as the participation and results of the tests carried out. It was found that the tests covered all six levels. The 20 percent of the students who selected Chinese classes had taken HSK tests. By reviewing the results between 2012 and 2019, it was concluded that: firstly, listening scores are significantly lower than reading scores for levels 1 to 3; secondly, at levels 4 to 6, scores depend entirely on the individuals; thirdly, the scores go lower as the levels become higher. It is necessary to help the students who take the test levels 1-3 to improve their listening skills and to help those that experienced studying abroad to practice more on reading and writing.

キーワード：HSK 試験、回顧、考察

1. はじめに

周知のとおり、HSK は母語が中国語でない者(外国人、華僑及び中国国内の少数民族)の中国語レベルを測定するために作られた中国語国家標準化試験である。この試験は北京語言大学にある中国語レベル試験センターが開発し、CEFR (ヨーロッパ言語共通参照枠組み) という世界共通の基準に準拠するように設計されている。目的は、中国語を母語としない受験者の生活、学習、仕事における中国語のコミュニケーション能力を測るためである。HSK は 1 級、2 級、3 級、4 級、5 級、6 級の 6 段階があり、6 級は最上級レベルである。1 級と 2 級の試験はリスニング問題と読解問題 (中国語では「閲読」、以下「閲読」と表記) の 2 パターンであり、3 級、4 級、5 級、6 級試験はリスニング問題と閲読問題、書写問題の 3 パターンから構成される。

一般的に、学生が中国に留学するには、HSK 試験を受けることが必須条件であり¹、中国にある日本企業に就職するにも、中国語能力が必要である。さらに、一部の日本企業では、HSK 資格が昇進のための参照項目となっている²。筆者が福山大学の卒業生を対象に実施した調査によると、企業が外国語能力の要求として、近年、英語の他、中国語に対しても強めている傾向がみられ、卒業生は母校に対して第二外国語に力を入れて、コミュニケーション能力を高めてほしいという要望を表明した³。

日本での HSK 試験の実施は 1999 年の 2,303 人の受験者から始まって年々その数が増え、2018 年の時点で 34,018 人に上る⁴。本学での HSK 試験の実施は 2012 年から始まって、今年 2020 年で 9 年目になる。節目の 10 年目に向けて、現在までの実施状況を回顧し、近年の受験の結果を考察することは極めて有意義であると考えられる。

*大学教育センター准教授

2. HSK 試験実施の開始

(1) HSK 実施の条件

本学における HSK 実施は 2008 年 4 月に福山大学孔子学院の成立がきっかけである。2011 年 8 月には、同学院が国家漢辦・孔子学院総部と中国政府認定の中国語検定試験である HSK 試験実施に関する協定を締結したのに伴い、HSK 試験の実施がスタートした。一方、福山大学では、初修外国語の中国語の履修者が多数いるため、HSK 中国語資格試験を実施する条件がそろい、実施可能となった。

(2) 実施の時期と方法

2012 年から HSK 筆記試験が実施され、2013 年からはネット上の受験が可能になったことによって、学生の受験の時期の選択が増えていった。しかし、2015 年 10 月にネット試験が中止され、現在では、筆記試験のみとなった。これまでの毎年の試験の時期と年間の実施回数を見ると、2012 年には 2 回（6 月 7 日、12 月 2 日）、2013 年はネット試験が始まり、年に 3 回（3 月 24 日、6 月 16 日、12 月 1 日）実施、2014 年 3 回（6 月 14 日、10 月 11 日、12 月 6 日）、2015 年には最多の 5 回（3 月 28 日、5 月 16 日、6 月 14 日、11 月 14 日、12 月 6 日）であった。2016 年からはネット試験が中止されたことによって、2016 年から現在までは年に 2 回（7 月の最初の土曜日と 12 月の最初の日曜日）の実施となっている。

(3) 本学の受験状況

本学の HSK 受験者（HSKK 口語試験を含まない）は 1 年生から 4 年生までである。とりわけ、中級中国語 I と II、上級中国語を履修している学生はほぼ全員 HSK 試験を受ける。受験する級を見ると 1 級から 6 級まですべての級が含まれている。表 1 と表 2 は、筆者が収集したデータから作成したものである。

表 1 2012 年度～2019 年度の中国語履修者数と HSK 受験者数*

| | 2012 年 | 2013 年 | 2014 年 | 2015 年 | 2016 年 | 2017 年 | 2018 年 | 2019 年 |
|------------|---------|--------|--------|--------|--------|-----------|--------|--------|
| 中国語履修者数* | — | 287 | 185 | 214 | 469 | 429 | 355 | 401 |
| HSK 受験者数** | 48 (41) | 11(11) | 19(16) | 53(49) | 91(75) | 115 (104) | 71(64) | 64(59) |
| 受験率%*** | — | 4 | 10(9) | 25(23) | 19(16) | 27(24) | 20(18) | 16(15) |

注*：中国語履修者数は中国語 I と中国語 II の平均値を示した数字である。

注**：受験者数とは、年度の受験回数をすべて足した人数の述べ人数と年度の受験回数に同じ人間が受験した実受験人数のことを指す。例えば、2019 年度に 2 回 HSK 試験を実施した。2 回の受験者を足した人数は 64 人である。しかし 64 人の中、1 回目も 2 回目も受験した履修者がいるため、実受験人数は 59 人である。

注***：受験率%とは、延べ受験率（実受験率）である。計算方法は、延べ受験率＝延べ受験者数÷履修者数、実受験率＝実受験者数÷履修者数。例えば、2019 年度の延べ受験率と実受験率は 16(15)である。

表 1 はそれぞれの年度の中国語履修者数と HSK 受験者数を示している。スタートした頃は、学生への受験の呼びかけに大変苦労した。教師及び学生の HSK 試験に対する認識の不足がその原因であると思われる。その後徐々に HSK 試験が定着し、2012 年～2015 年までの 4 年間では、2015 年の受験者数が最も多く、かつ受験率が最も高いが、これは 2015 年に HSK 実施の回数が最も多く（5 回）あったためと考えられる。2016 年度から、中国語専任教員が着任し、中国語履修全クラスの学生の受験への呼びかけが実現し、また受験直前の対策講座も実施しうようになった。結果的に 2016 年度から受験率 20%前後を維持できたと考えられる。2017 年度の受験率は最も高く 27%である。2018 年度から本学は韓国語を開設し、中国語を履修する学生数が減ったが、HSK 受験率は依然として 20%に上

り、学生が中国語資格取得に熱心に取り組んでいることが窺える。

2012 年度から 2019 年度の HSK 試験に参加した人数と合格状況について詳しく見てみると、表 2 で示している通り、1 級から 6 級まですべての級の受験生がいる。受験人数は 1 級が最も多く、級が高くなるにつれ受験者の数が減少している。更に、2 級を除き、級が上がるにつれ合格率が低くなっている。合格率が最も高いのは 2 級で、90.1%となっている。

表 2 2012 年～2019 年度 HSK の受験人数・合格人数・合格率

| 級 | 年度 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 合計 |
|--------|---------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 1 級 | 受験人数 | 15 | 1 | 5 | 27 | 44 | 57 | 27 | 35 | 176 |
| | 合格人数 | 14 | 1 | 5 | 22 | 34 | 52 | 24 | 28 | 152 |
| | 合格率 (%) | 93.3 | 100 | 100 | 81.5 | 77.3 | 91.2 | 88.9 | 80 | 86.4 |
| 2 級 | 受験人数 | 19 | 2 | 8 | 10 | 31 | 21 | 20 | 13 | 111 |
| | 合格人数 | 16 | 2 | 7 | 10 | 28 | 19 | 18 | 13 | 100 |
| | 合格率 (%) | 84.2 | 100 | 87.5 | 100 | 90.3 | 90.5 | 90 | 100 | 90.1 |
| 3 級 | 受験人数 | 8 | 4 | 6 | 5 | 6 | 31 | 15 | 8 | 75 |
| | 合格人数 | 7 | 2 | 3 | 5 | 5 | 16 | 11 | 6 | 49 |
| | 合格率 (%) | 87.5 | 50 | 50 | 100 | 83.3 | 51.6 | 73.3 | 75 | 65.3 |
| 4 級 | 受験人数 | 3 | 2 | 0 | 8 | 3 | 5 | 7 | 7 | 28 |
| | 合格人数 | 3 | 2 | 0 | 3 | 1 | 3 | 6 | 6 | 18 |
| | 合格率 (%) | 100 | 100 | 0 | 37.5 | 33.3 | 60 | 85.7 | 85.7 | 64.3 |
| 5 級 | 受験人数 | 3 | 1 | 0 | 2 | 0 | 2 | 3 | 1 | 11 |
| | 合格人数 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 3 |
| | 合格率 (%) | 0 | 0 | 0 | 50 | 0 | 50 | 33.3 | 0 | 27.3 |
| 6 級 | 受験人数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 | 3 |
| | 合格人数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 合格率 (%) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 受験人数合計 | | 48 | 10 | 19 | 52 | 86 | 117 | 72 | 64 | 468 |
| 合格人数合計 | | 40 | 7 | 15 | 41 | 68 | 91 | 60 | 53 | 375 |

注 1) : HSK5 級と 6 級の成績通知書には、合格可否を明示してなく、具体的な点数のみを記入している。

一般的に 6 割に達することを合格ラインと判断されているため、本表は 60%を合格として換算する。

注 2) : 「受験人数合計」と「合格人数」は述べ人数である。

次に、2016 年から 2019 年度の受験結果データを考察範囲とし、1 級から 6 級のリスニング、読解、書写（3 級以上）を中心に、学生の受験結果の傾向と問題点を考察していきたい。

3. 各級から見る HSK 受験の結果（2016 年～2019 年）

(1) 1 級のリスニングと読解成績

HSK1 級は非常に簡単な単語と文を理解し、さらに学習するための基礎力を固めるのが目的である。1 級試験は全部で 40 問、2 つの部分（リスニング問題 20 問、読解問題は 20 問）からなる。満点は 200 点、合格点は 120 点である。受験者は中国語学習歴が半年で、150 の単語と関連する文法知識が必要とされる。

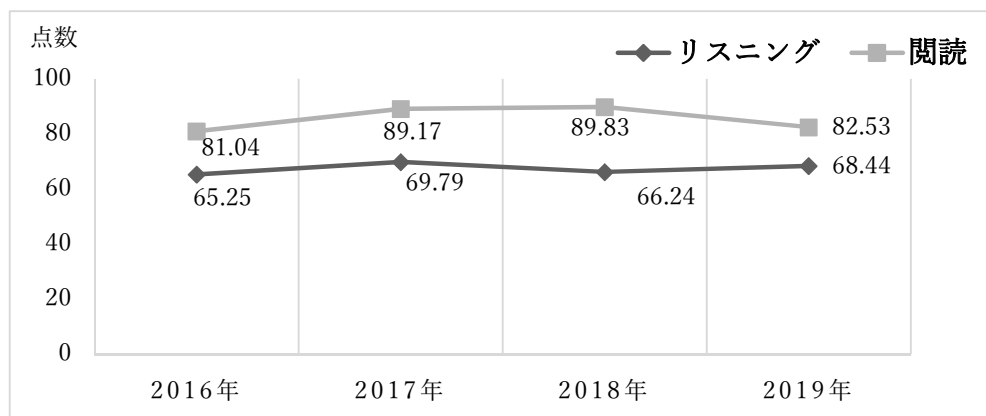


図 1 2016 年度～2019 年度の HSK1 級の成績変化

図 1 は 2016 年度から 2019 年度の 7 月と 12 月の二回の試験におけるリスニング及び閲読の得点の平均値である。受験者は 2012 年～2019 年度にそれぞれ 44、57、27、35 名であった。本学の学生で 1 級を受けるのは、全員 1 年生で、受験時の中国語学習歴は 1 年未満である。リスニングの平均点は、4 年間すべて 65 点台から 69 点台までであり、閲読は 80 点から 90 点までとなっている。閲読の点数がリスニングの点数より高い理由は、世界各国の受験生と比べると、日本人の学生にとって漢字の学習が相対的に容易であるからと考えられる。

(2) 2 級のリスニングと閲読成績

HSK2 級は受験者の中国語の日常応用能力を測定することが目的であり、HSK2 級に合格した者は中国語で日常の話題について簡単なコミュニケーションができる。言い換えれば初級中国語レベルに達していると言える。2 級のテスト問題は合わせて 60 問、リスニングと閲読の 2 つ部分からなる。リスニングは 35 問、閲読は 25 問、満点は 200 点、120 点が合格点である。受験者は一年間中国語を学習し、単語は 300 語とそれに相応する文法知識を理解していることが要求される。

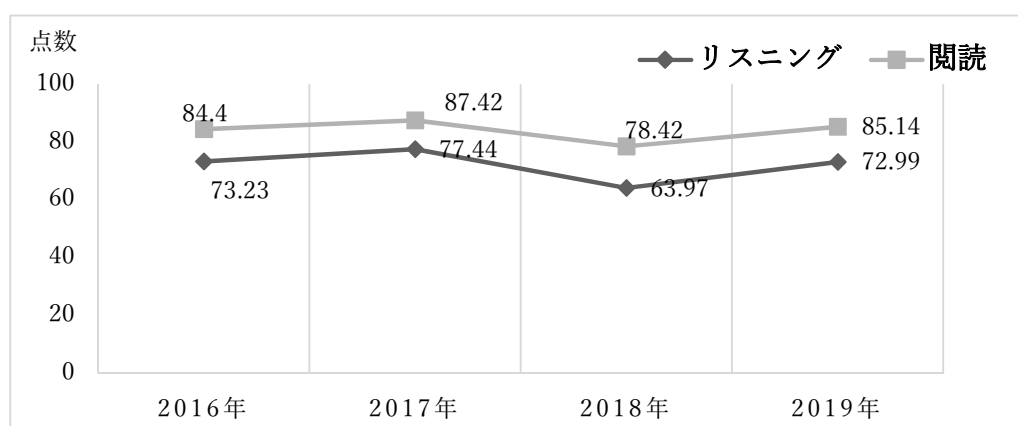


図 2 2016 年度～2019 年度の HSK2 級の成績変化

図 2 は 2016 年度から 2019 年度の 7 月と 12 月の二回のテストのリスニング及び閲読の得点平均値を示したものである。受験者は 2016 年～2019 年度でそれぞれ 31 名、21 名、20 名と 13 名であった。本学の受験者の中国語学習歴は、1 年後期と 2 年前期の学生が中心であった。図 2 に見られるように、1 級の傾向と同じく、リスニングの成績は閲読の成績より 10 点ほど低い。それに 2018 年度はリスニングと閲読のどちらも低かった。その原因は、2018 年 12 月の試験において、2 名の学生の成績が極端に低かったため、平均点が下がったと思われる。ほかの年度は、リスニングの成績を 1 級の 60 点台と

比べると、70 点台となっている。これは、HSK2 級の問題のパターンは 1 級と同様、学生が問題のパターンに慣れていることと、2 級の問題設定が相対的に簡単であるのに対して、学生の中国語の学習時間（1 年後期と 2 年前期）が長くなったことに関係があると思われる。

(3) 3 級のリスニングと閱讀と書写の成績

HSK3 級に合格した者は中国語により生活、学習、仕事の面において基本的なコミュニケーション能力を有していることが求められる。受験者は 600 語の語彙、よく使われる単語と文法知識を有しているか否かを測定される。試験は 80 問で、1 級と 2 級の問題のリスニング、閱讀の他、「書写」（つまり空所に当てはまる漢字を書く問題、語句の並べ替え問題、4 級から作文問題、以下は書写と表記）がテスト内容に追加される。全部で 80 問、満点は 300 点、180 点が合格点である。

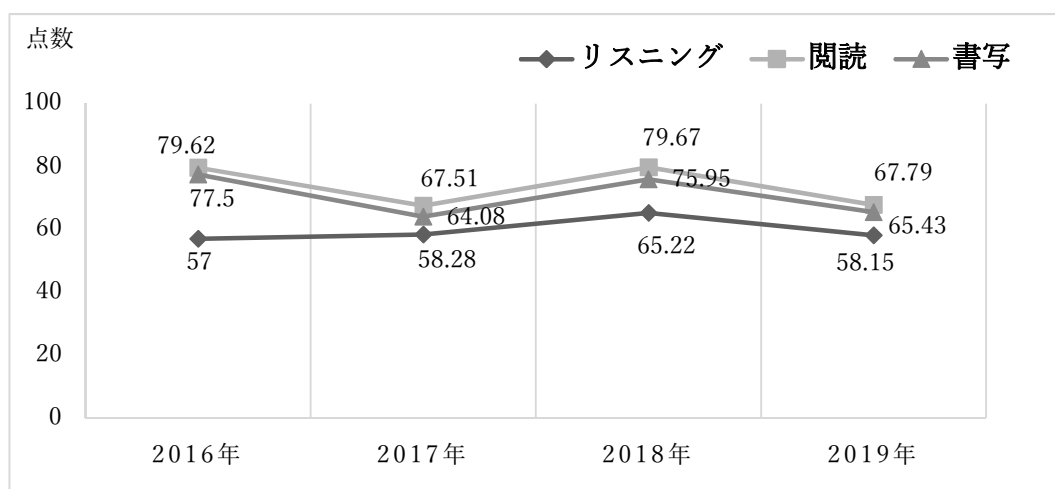


図3 2016 年度～2019 年度における HSK3 級の成績変化

本学で 3 級を受ける学生はほとんど「中級中国語Ⅱ」の履修学生である。受験者は 2016 年～2019 年度でそれぞれ 6 名、31 名、15 名と 8 名であった。図 3 で示したように、成績は 4 年とも「閱讀、書写、リスニング」の順となっている。ただ、2018 年度は 2017 年度の成績の平均値よりリスニング、閱讀、書写において 10 点ほど上がったことは注目に値する。これは、2017 年度の合格率 51.6% と低かったため、2018 年度の試験直前の補習対策に力を入れた結果、2018 年度の合格率は 73.3% まで上がったことが理由の一つであると考えられる。

(4) 4 級のリスニングと閱讀と書写の成績

HSK4 級に合格した者は、中国語で、比較的広範囲の話題について議論したり、比較的に流暢に中国語を母国とする者と会話できる。1200 語の語彙量を持つことが求められる。試験内容は 100 問で、3 級と同じ問題様式であり、リスニング、閱讀、書写の三つの部分からなり、満点は 300 点、180 点が合格点である。本学の学生で HSK4 級を受けるのは、中級中国語Ⅱの受講生と「上級中国語」及び「ビジネス中国語」の受講生である。受験者は 2016 年～2019 年度でそれぞれ 3 名、5 名、7 名と 7 名であった。

4 級を受ける学生の成績は全体的に上昇している傾向が分かる。ただ、リスニング、閱讀、書写の三項目について 1 級から 3 級までを比べると、それぞれ個人差が見られ、成績において一定の法則性は見えない。また、受験者の中には、中国に短期留学者もいることに注目したい。4 級の合格率は、2016 年度の 33.3% の他、2017 年度は 60%、2018 年度と 2019 年度は同じく 85.7% という高い合格率となっている。これは、受験対策の補習において、それぞれ個人に対応した指導を実施した結果と推測される。

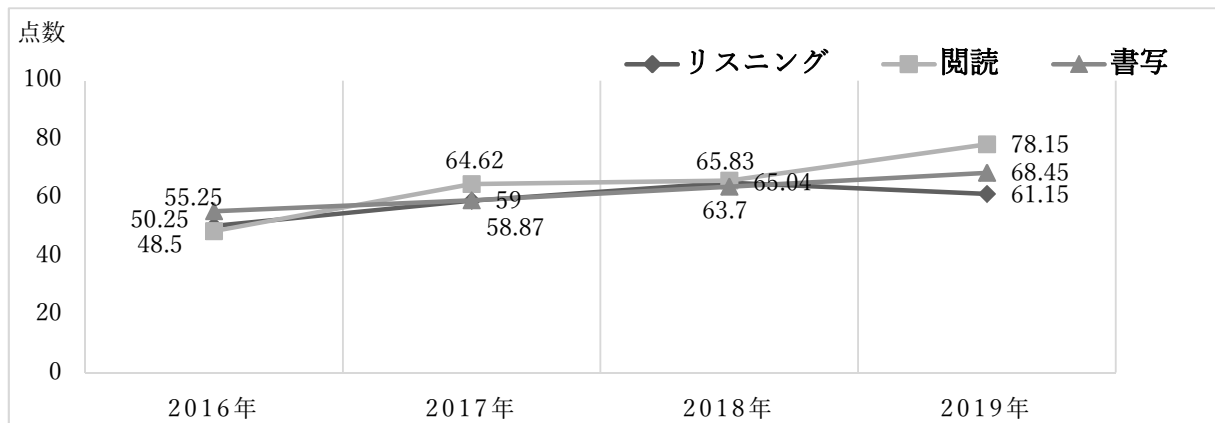


図 4 2016 年度～2019 年度の HSK4 級の成績変化

(5) 5 級のリスニングと閲読と書写の成績

HSK5 級に合格した者は、中国語の新聞や雑誌、中国語の映画・テレビ番組を理解でき、中国語で講演できるようになるとされている。受験者は 2500 語の日常語彙を求められる。試験問題は全部で 100 問、リスニング、閲読、書写の三つの部分からなる。成績は 300 点満点、スコア制で、合格点は示されない。ただ、一般的に 6 割が合格ラインと考えられる。

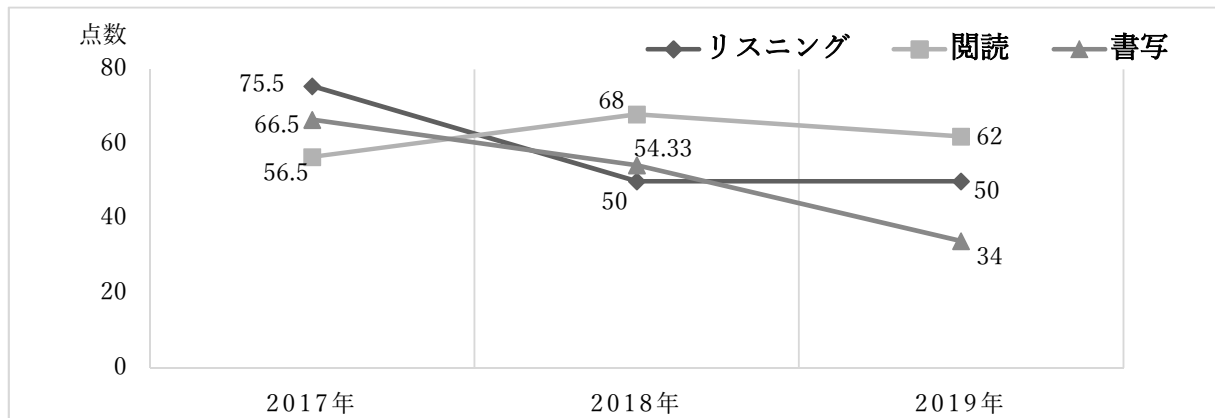


図 5 2017 年度～2019 年度の HSK5 級の成績変化

本学は 2016 年には 5 級を受ける学生がいなかったため、2017 年度～2019 年度を見ると、受験者はそれぞれ 2 名、3 名と 1 名であった。2017 年に受験した学生の 2 人のうち一人は両親が中国人で、中国語のリスニングには問題がないが、書写と閲読は難しかった。もう一人は中国留学経験者であった。したがって、2017 年の成績はリスニングが最もよく、次いで書写と閲読の順であった。2018 年の受験者の 2 人は、中国留学経験者ではなく、項目は日本人の学生によく見られる成績の順、即ち「閲読、書写、リスニング」の順であった。2019 年の受験者は、中国留学経験者であり、成績の順は「閲読、リスニング、書写」である。つまり、5 級は、学生の個人差が大きく、成績の分散状況が見られた。

(6) 6 級のリスニングと閲読と書写の成績

HSK6 級に合格した者は、容易に中国語の情報を理解でき、更に、口頭や書面形式で中国語により流暢に自分の意見が表明しうるとされている。受験者は 5000 語以上の語彙量が必要である。試験内容は 101 問、リスニング、閲読、書写の三つの部分からなる。5 級と同様、合格ラインは設けられない。ただ通常 60%が参考基準とされている。

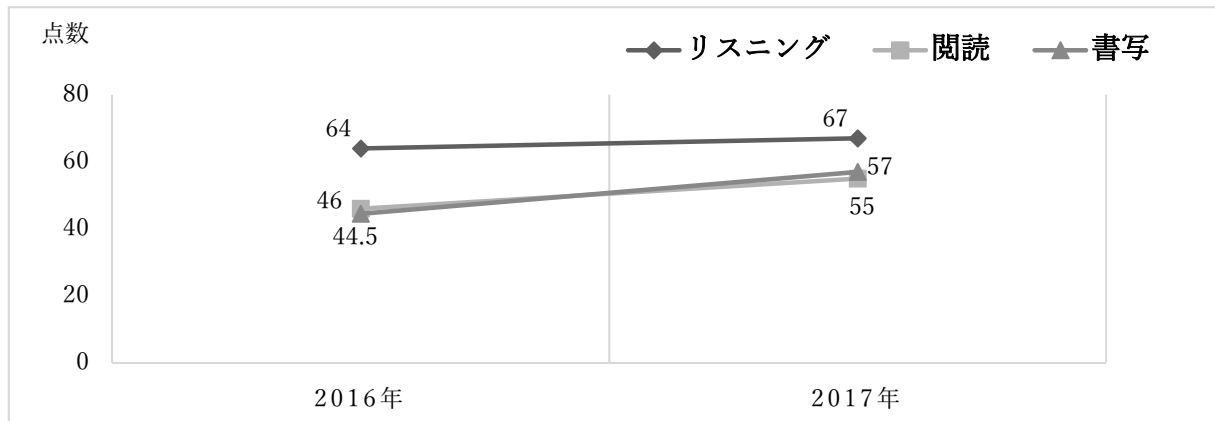


図 6 2016 年度～2017 年度の HSK6 級の成績変化

本学の HSK6 級を受けた学生は 1 人だけであった。2016 年度に 2 回受け、2017 年度に 1 回受験した。「上級中国語」と「ビジネス中国語」の受講者であった。父親は中国人で母親は日本人、小学校 3 年生まで中国の小学校に通っていた。2016 年と 2017 年に連続して 6 級を受けて、すこし成績は上昇したが、リスニング、閲読、書写の平均点は 6 割に達しなかった。中国の小学校を通ったことと、親族に中国人がいるため、リスニングの成績は良かったが、読解と書写で高得点をとるのは難しかった。

4. 時系列から見たリスニング・閲読・書写の成績の特徴（2016 年～2019 年）

(1) リスニング成績の特徴

リスニングの成績を見ると、2 級の得点が最も高かった。これは、2 級を受ける学生はほぼ 2 年生で、習得語彙 300 語の要求を満たしやすかったためであろう。問題のパターンは 1 級と同じであり、慣れてきたことも一つの要因と考えられる。3 級からは問題の難度が高くなり、リスニングと閲読に加え、書写があるため、学生はついていけず、成績が下がっていく。5 級と 6 級のリスニング問題は高度だが、成績は比較的維持できている。これは、5 級と 6 級は受けた学生の特徴による。留学した者や、片親が中国人であることが、リスニングの高得点につながったのであろう。即ち、家で中国語で話すことや、中国で生活したことがあることが影響を及ぼしたと考えられるのである。

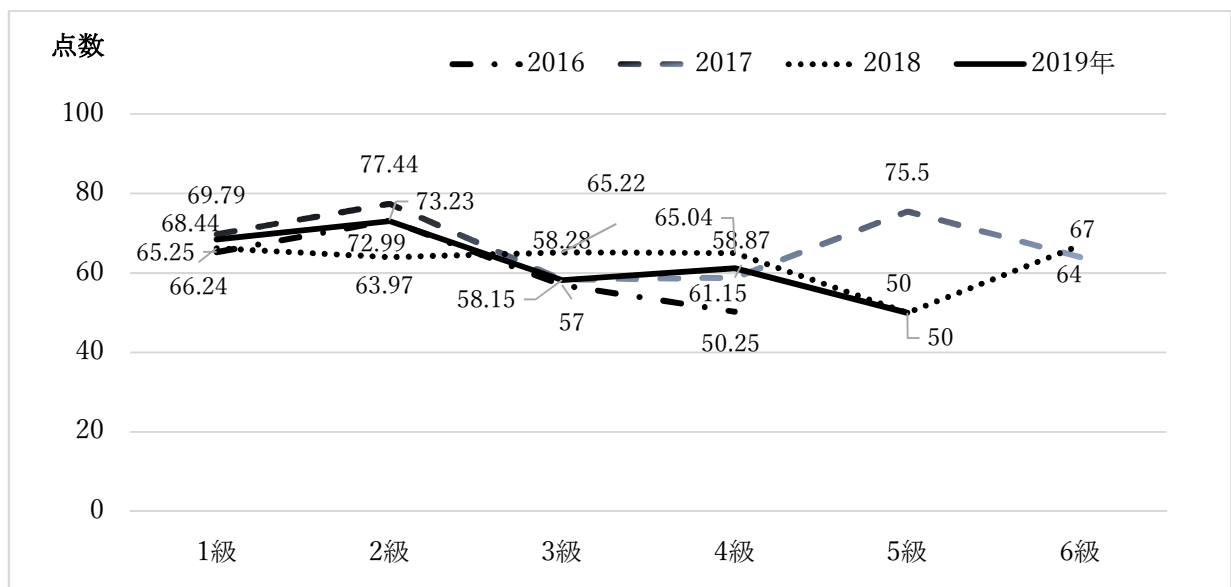


図 7 時系列に見たリスニングの成績の特徴

(2) 読読成績の特徴

読読の場合は、リスニングと違い、1級から6級へ上がるにつれて平均値は下がる一方である。1級と2級は同一のランクで、3級と4級ではワンステップ下がり、5級と6級ではさらにワンステップ下がっている。「3. 各級から見る HSK 受験の結果 (2016 年～2019 年)」で見た通り、6 級をのぞき学生の成績は読解の平均点数がリスニングと比べると高い傾向にあるが、級が上がるにつれて成績が下がっていく。3 級の単語は 600 語、4 級の単語は 1200 語となり、覚えきれないためか、成績が 2 級と比べると、10 点低くなる。さらに、5 級になると、単語は 5000 語以上になり、長文問題があり、読解力が必要になるため、かなりのトレーニングが必要となる。

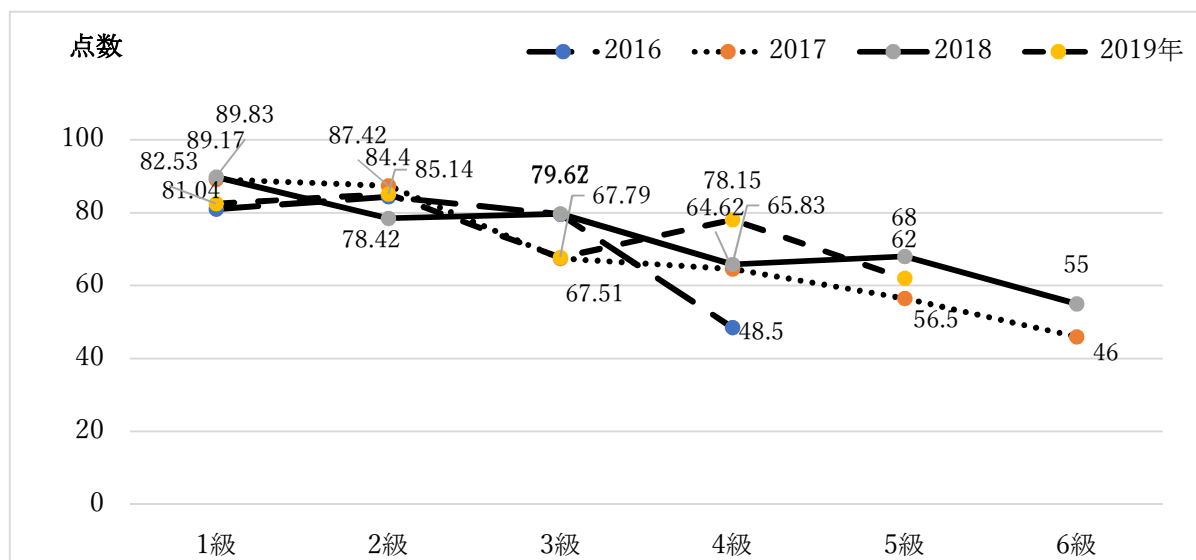


図 8 時系列に見た読読の成績の特徴

(3) 書写成績の特徴

書写は 3 級からの問題である。読解と同じような傾向が見られる。即ち、級が上がるにつれ、成績が下がる。学生の書く能力をさらに鍛える必要のあることを物語っている。

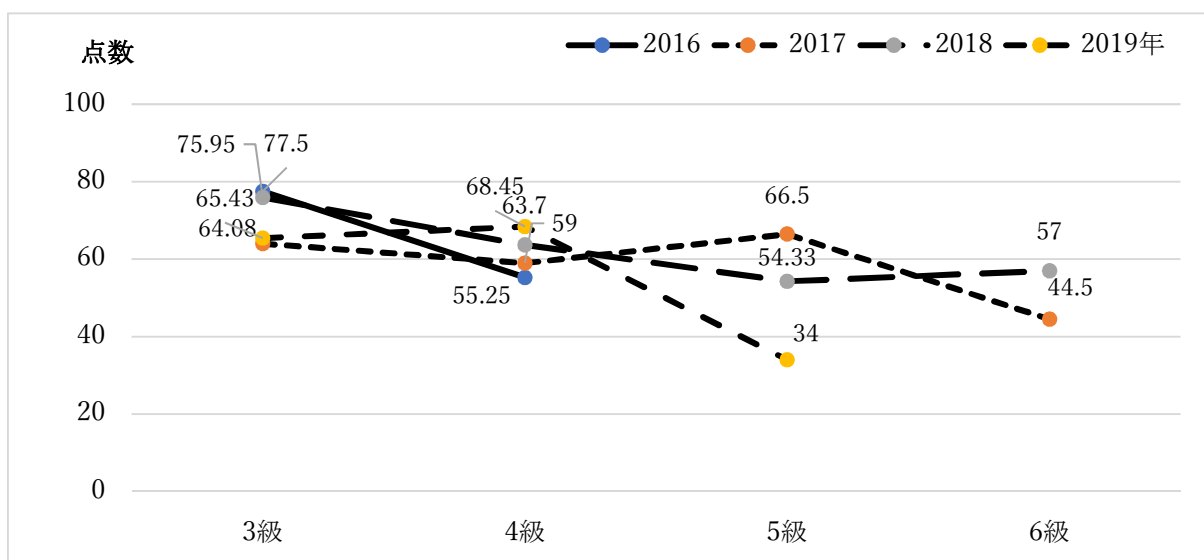


図 9 時系列にみた書写の成績の特徴

5. おわりに

以上、本学における HSK 試験の回顧と 2016 年～2019 年の HSK 受験結果を 1 級から 6 級までの級別に、そしてリスニング、読解、書写のカテゴリー別に時系列で考察した。

まず、HSK 試験を回顧し、本学が HSK 実施してから現在までの軌跡を見ると、試験方法が筆記試験→筆記試験+ネット試験→筆記試験と変化した。本学の学生はどの形式の試験にも参加していた。受験者の人数は中国語履修者全体の人数の割合から見ると 20%前後にとどまっており、すべての級に挑戦してきたことが分かる。これは、本学学生の中国語の学習意欲を促し、学生の自己への挑戦能力を養成したともいえる。

次に、2016 年度から 2019 年度の試験結果については、次の特徴が見られた。

第一に、1 級から 3 級までの共通点が見られた。即ち、リスニングの成績は他の試験項目より、最も低かった。今後、1 級から 3 級を受ける学生に対しては、リスニング成績を高めることに重点を置く必要があることが分かった。第二に、4 級から 6 級までを受験する学生の成績には、共通点がなく、リスニング、読解、書写の成績は様々だった。この結果となったのは、受験生の個人差によるものだと考えられる。つまり、留学経験者や、親が中国人の受験生がいたからである。このことから、留学経験がない日本人学生に対して、コミュニケーションのためのリスニング能力をどのようにすれば高められるかが今後の課題である。第三に、級が上がるにつれ、書写成績が落ちてくる。学生が社会に出て公式の文書がかけられるように書写能力を今以上に養成する必要がある。現在学生はスマートフォンを利用しているためか、長い文章を綴る能力が育っていない。日ごろが学生に長文を書かせるよう指導することが必要であると分かった。一方、5 級から 6 級までの中国留学経験者と両親が片方の親が中国人で日本生まれ、日本育ちの学生には、読解と書写能力の養成を視野に入れることが必要である。さらに、リスニング、読解、書写を時系列で見ると、級が上がるにつれ成績が下がることが分かった。現在企業は HSK4 級以上を求めているところが少なくない。実際の状況を見ると、4 級以上に合格している学生も平均成績は高くない。彼らが社会に出た後の応用能力を高めるために、在学中に更なるトレーニングが必要である。

2016 年度から、試験前に補習対策クラスを作ったことが学生の合格率を向させる上で効果があったことは疑う余地がない。但し、本稿は補習対策クラスの要因分析は視野に入れていない。今後、成績に影響する要因のより厳密な分析を視野にいれ、補習対策講座と成績の関係を見ていきたい。さらに実態を解明するために、HSK 試験を受験した学生にアンケート調査やインタビューを行い、追跡調査を行うことも必要であると考えており、今後の課題としたい。

【注】

- 1 中国国内の主要大学で要求される HSK 基準はそれぞれの大学で違うが、学部生の場合は、基本的に文系は HSK5 級、理系は HSK4 級となっている。
http://www.hskj.jp/about/advantage/standard_example/ (閲覧日：2020 年 1 月 10 日)
- 2 例えば、福山市にある常石造船株式会社はこの方法を採用した。HSK を会社従業員の昇進や給料アップする参照項目としている。
- 3 劉国彬「変容する社会における大学の外国語教育の課題/福山大学の卒業生に対するアンケートから」『福山大学大学教育論叢』第 5 号、2019 年 3 月。25-37 頁。
- 4 HSK 日本で一番受けられている中国語 URL:<http://www.hskj.jp/about/>を参照。(閲覧日：2020 年 1 月 10 日)

【参考資料】

大塚豊（平成 29 年 3 月）『中国の対外言語教育政策に関する研究』平成 26 年度～平成 28 年度科学

研究費補助金（基盤研究（C）研究成果報告書）。

福山大学孔子学院 URL:<http://web.fukuyama-u.ac.jp/confucius/>。（閲覧日：2020 年 1 月 10 日）

漢語考試服務网 URL:<http://www.chinesetest.cn>。（閲覧日：2020 年 1 月 10 日）

福山大学孔子学院が提供した HSK（2012 年-2019 年）の受験情報。

福山大学教務課が提供した 2013 年から 2019 年までの中国語履修者人数情報。